

▶青少年健康センター会長からのご挨拶 齋藤 環 …	1
▶2022年度 補助・助成事業完了報告 ……	2
独立行政法人福祉医療機構助成事業報告	
公益財団法人 JKA補助事業報告	
▶会費等報告 / 2022年度決算報告 ……	3
▶CENTER NEWS ……	4

青少年健康センター会長からのご挨拶

COVID-19の感染拡大がようやく収束したかと思いきや、私の周辺の友人、知人、担当患者などの間では、かつてないほど感染者が増加中です。多くの専門家が指摘するように、現在は第九波の渦中にあると考えるべきでしょう。ひきつづき感染を広げない行動を心掛けていきたいものです。

とはいえ、社会全体としては、感染拡大以前の生活に戻りつつあるのも事実です。学会や講演会なども対面開催に戻っており、会食や呑み会も盛況、観光地には人が溢れ、海外からの観光客も以前の水準に戻りつつあるようです。あらためて痛感するのは、やはり社会はリモートだけでは回らない、という実感です。いや、もう少し正確に言い直すなら、「リモートでは代替できない分野」と「リモートで十分回る分野」の区別が明らかになったと言えます。

私の分野で言えば、診察や治療ミーティング、授業や実習、ワークショップや研修会などは、対面なしでは難しいと痛感しました。リモートで回せる部分もありますが、どうしても限界があります。しかし、「会議」は別です。私は大学教員として、よく意味のわからない会議にも毎週のように出席していますが、ほとんどの会議がいまだにリモートであるおかげで非常に助かっています。文科省や厚労省の委員会なども、リモート開催が続いているおかげでなんとか出席できています。これについては現状維持を強く望むものです。

さて、委員会と言えば、私は現在、ひきこもり関連だけでも4つの委員会に参加しています。東京都、厚労省、三重県、そして笠間市のひきこもり会議です。このところ、多くの自治体がひきこもり支援の委員会を立ち上げつつあり、私にもまだ声がかかりますが、さすがに現状で手一杯というところでは。

私は2007年に厚労省の科研費研究のひきこもり研究班に参加して、ひきこもりガイドラインの作成に参加していました。メンバーの多くが精神科医であったためもあり、研究班の方向性は完全に「医療化」でした。

つまり、ひきこもりの多くは何らかの精神障害を合併しており、精神科での治療を受けるべきである、という方向性です。

しかし、あれから10年以上を経て、厚労省は大幅な方針転換を遂げつつあります。前回も書きましたが、厚労省が設置した「ひきこもりvoice station」は、大幅に医療化からは距離を取った内容になりつつあります。また厚労省が進めている「ひきこもり支援にかかる支援マニュアル調査研究検討委員会」には、当事者経験のある林恭子さんや社会学者の石川良子さんが参加しています。

医療化モデルのように、「診断して治す」というスタイルは過去のものになりつつあります。今後の鍵を握るキーワードは「重層的支援」と「伴走型支援」でしょう。

重層的支援は、それぞれの自治体にすでにある相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑な支援ニーズに対応するための包括的な支援体制を意味します。具体的には、I 相談支援、II 参加支援、III 地域づくりに向けた支援を一体的に実施するもので、多くの自治体が取り組みを進めています。

伴走型支援は、支援される本人の主体性を尊重します。支援者が上にいて被支援者を引っ張り上げる、つまり教えたり指導したりするタイプの支援ではなく、文字通りともに進み、ともに変わっていくような支援です。そこでは「対話」が重視されることとなります。

当センターでも早くから対話実践を支援の中に取り入れてきた経緯もありますから、口はばったいことを申せば、やっと「時代が追いついてきた」感があります。今後とも、私たちの活動に、皆さまの温かいご支援を賜れますよう、よろしく願いいたします。

公益社団法人青少年健康センター
会長 齋藤 環

2022年度 補助・助成事業完了報告

2022年度につきましては大変ありがたいことに、独立行政法人福祉医療機構様、公益財団法人JKA様より事業の助成・補助を賜ることができました。当法人の事業に対し、深いご理解ならびに温かいご支援を賜りましたこと、心より感謝を申し上げます。また、それぞれの事業においてご協力いただいた皆さまにも重ねて御礼を申し上げます。

独立行政法人福祉医療機構助成事業報告

独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、事業名「中高年のひきこもりとの地域共生社会づくり事業」を完了いたしましたことをご報告申し上げます。本事業では、ひきこもりが長期化する中高年ひきこもりの当事者・家族に対し、「8050問題」を未然に防ぐセーフティネットの拡充を目的に、地域の社会資源と連携しながら、多方面から包括的にアプローチしてまいりました。本事業において実施した内容は以下の通りです。

- ①「8050アウトリーチサポーター」養成研修
- ②カフェ形式の居場所「ゆったりカフェレオン」
- ③「8050サバイバルガイド」作成

本事業を通じて、地域で活動されている生活困窮支援や介護サービス等を担う福祉事業所との情報交換や支援ネットワークの構築が実現されただけでなく、カフェ活動やサバイバルブックを通してひきこもり当事者の方々に今後を生活していくための手段の提供が可能になったと考えております。

今後とも当事業を続けていくことを考えておりますが、2022年度にて助成が終了となり、事業継続のためには皆さまのご協力が必要となります。引き続き、ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 JKA 補助事業報告

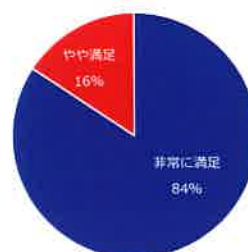
公益財団法人 JKAにおける競輪の補助を受け、以下の「2022年度引きこもり・不登校・生活困窮者・LGBTQやジェンダーの実現に向けた支援活動補助事業」を完了いたしましたことをご報告申し上げます。

○斎藤環氏実施「ひきこもり対策講座 Q&A集」の作成

1998年より原則月一回実施している「ひきこもり対策講座（現ひきこもりダイアログ講座）」では、毎回、受講者であるひきこもりを抱える家族や当事者からの質問に、斎藤環講師が答える質疑応答の時間をとっています。質問内容は、普遍的なものから時代背景を反映するものまで多岐に渡り、様々な事情を抱える家族から、毎月多くの質問が寄せられます。本事業では20年余りの講座実績で蓄積された2,000問以上の質疑応答の中から選定し、系統立てて118問のQ&Aにまとめた冊子の作成いたしました。大変ありがたいことにアンケート結果ではすべての方から満足であるとの評価をいただきました。

本冊子は、新規会員の方に無料で配布、一般向けの頒布を予定しており、広く様々な方に末永く届けて参りたいと考えております。

問1. 冊子の満足度を教えてください
51件の回答



会費・寄付金・助成金・補助金報告 (2022年7月～2023年7月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げます(敬称略)。

【正会員】

赤城 卓也 稲村 優子 河野 治子 菊池 章 倉島 徹 倉本 英彦 小石 誠二 菅原 建
 高橋 清久 高山 智 玉置 正和 中島 聡美 西村 秋生 能勢 孝子 眞下 テル 松岡太郎
 宮田タマ恵 米沢 宏 計：350,000円

【維持会員】

遠藤幸代子 生出 美穂 岡 貴代 齋藤親一朗 佐藤 晶昭 鈴木 邦一 高橋 章浩 田村 恭子
 戸村みどり 蛭田 朝子 藤井 幸子 藤本 純子 丸山 邦子 宮崎 圭子 山内 正樹 渡辺 彰子
 匿名31名 計：470,000円

【SW会員】

203名 計：2,130,000円

【寄 付】

稲村 優子 生出 美穂 大石 公寿 清水 孝純 鈴木 厚一 常廣 澄子 徳永 威典 橋本 進
 廣瀬 令子 本間 陽子 丸山 邦子 山下 正美 匿名7名
 ソフトバンクつながる募金/ヤフーネット募金/住信SBIネット銀行募金 計：3,734,875円

【助成金・補助金】

公益財団法人JKA 953,242円

2022年度決算報告 (2022年4月1日～2023年3月31日)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常増減の部			
(1)経常利益			
1 基本財産運用益	0	0	0
2 受取会費	750,000	810,000	△ 60,000
3 受取補助金等	10,519,103	14,891,269	△ 4,372,166
寄付金収入	5,849,889	5,599,689	250,200
補助金・助成金収入	4,669,214	9,291,580	△ 4,622,366
4 事業収益	108,044,477	90,773,558	17,270,919
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	107,362,779	90,129,223	17,233,556
公2 社会参加支援プログラム開催事業	0	0	0
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	0	0	0
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	681,698	644,335	37,363
公5 青少年自殺予防事業	0	0	0
5 その他の収益	61,950	1,416	60,534
経常収益計	119,375,530	106,476,243	12,899,287
(2)経常費用			
1 事業費	116,243,281	96,886,013	19,357,268
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	103,773,616	84,143,090	19,630,526
公2 社会参加支援プログラム開催事業	426,362	604,544	△ 178,182
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	1,575,640	968,153	607,487
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	7,085,823	6,679,956	405,867
公5 青少年自殺予防事業	3,381,840	4,490,270	△ 1,108,430
2 管理費	7,768,808	8,220,899	△ 452,091
経常費用計	124,012,089	105,106,912	18,905,177
当期経常増減額	△ 4,636,559	1,369,331	△ 6,005,890

(単位：円)

CENTER NEWS

2022年7月～2023年7月（敬称略）

7月

- ひきこもりダイアログ講座 於アカデミー茗台・Zoom
開催 9日
講師：斎藤 環（精神科医）[講師名以下略]
- 文京区ひきこもり等自立支援事業 茶話会 23日（年6回）
講師：井利 由利（当法人理事）・倉光 洋平（当法人臨床心理士）
- 茗荷谷クラブ 女性限定の居場所「女子会」 25日（月1回）

8月

- ひきこもりダイアログ講座 於連合会館・Zoom開催
20日
- 茗荷谷クラブ 40代以上の居場所「よつば庵」 28日（年6回）

9月

- ひきこもり家族のライフプラン個別相談会 於青少年健康センター 10日（12月まで月1回）
講師：畠中 雅子（ファイナンシャルプランナー）
- 茗荷谷クラブ ソフトボール大会 於後楽園少年野球場
16日

10月

- 多摩市講演会「こころがホッとする居場所はありますか～ひきこもりの方との向き合い方～」於永山公民館 ベルブホール 1日
講師：井利 由利
- 板橋区 ひきこもり家族教室 3日（月2回）
講師：井利 由利・手塚久美子（当法人臨床心理士）
- 文京区講演会「ひきこもりが長期化しないためには」於文京区民センター 15日
講師：斎藤 環
- ひきこもりダイアログ講座（午後の部）於文京区民センター 15日
- 茗荷谷クラブ バーベキュー 於新木場 28日
- 都立多摩総合精神保健福祉センター 本人グループ 31日
講師：手塚久美子

11月

- ひきこもりダイアログ講座（午前の部）Zoom開催 26日
- シンポジウム「孤立、ひきこもり、社会的排除について考える」 Zoom開催 26日
講師：斎藤 環・井出 草平（多摩大学客員研究員）・関水 徹平（立正大学准教授）
- 台東区講演会「ひきこもりの長期化から考えるライフプラン」於台東区役所 5日
講師：村井 英一（ファイナンシャルプランナー）
- 茗荷谷クラブ スポーツ大会 於文京スポーツセンター 9日
- 楽の会リーラ月例会「発達障害とひきこもり」於Ike・Biz としま産業振興プラザ 19日
講師：井利 由利
- 関東学院大学カウンセリングセンター主催「大学における学生支援」 Zoom開催 28日
講師：井利 由利

12月

- ひきこもりダイアログ講座 Zoom開催 17日
- 茗荷谷クラブ クリスマス会 於かるた会館 23日

1月

- 千代田区講演会「精神科医が教える、ひきこもり対応の初歩～何から始める？家族にできるはじめての一步～」於千代田区高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ 21日

2月

- 羽村市講演会「ひきこもりの方への向かい方」於プリモホール ゆとろぎ講座室 11日
講師：井利 由利
- 文京区講演会「“ひきこもり”はどう“回復”していくのか」於文京区民センター 18日
講師：板東 充彦（跡見学園女子大学准教授）・倉光洋平・ひきこもり当事者
- ひきこもりダイアログ講座 於都立産業貿易センター 台東館・Zoom開催 25日
- 茗荷谷クラブ 文化祭 於シルクロードカフェ 25日

3月

- 台東区講演会「ひきこもりの方への訪問の実際～精神科在宅診療の実践から～」於台東区役所 4日
講師：作間 聡（精神保健福祉士）
- ひきこもりダイアログ講座 於連合会館・Zoom開催 18日
- 茗荷谷クラブ 花見&バーベキュー 於朝霞農園 29日

2023年度

4月

- ひきこもりダイアログ講座 於連合会館・Zoom開催 15日
- 茗荷谷クラブ フットサル大会 於目白台運動公園 21日

5月

- ひきこもりダイアログ講座 於アカデミー茗台・Zoom開催 13日
- 茗荷谷クラブ 春旅行 於森林公園 26日
- 台東区講演会「若者をまんなかにした場をつくる～ユースワークとしての若者支援～」於台東区役所 27日
講師：中塚 史行（NPO法人教育サポートセンター NIRE 代表）

6月

- 文京区講演会「家族の『心理的絆』を再考する～アタッチメント理論から紐解くひきこもり支援とは～」於文京区民センター 17日
講師：北島 歩美（日本女子大学専任研究員）
- ひきこもりダイアログ講座 於連合会館・Zoom開催 17日

7月

- ひきこもりダイアログ講座 於アカデミー茗台・Zoom開催 8日
- 茗荷谷クラブ ハイキング 於生田緑地 19日
- 茗荷谷クラブ 社会参加講座「ひきこもっていても仕事ができる・つながれる」於青少年健康センター・Zoom開催 28日
講師：山田 邦夫（株式会社Meta Anchor）